

平成 26 年度第 7 回総合分析実験センターセミナー

次世代シーケンサーが登場し生命科学研究にパラダイムシフトが起こりつつあります。この変化に対応するために総合分析実験センターでは「次世代シーケンサーのためのライブラリ調製&データ解析システム」を整えました。外部委託が安価な HiSeq による 1 レーン解析以外の部分、つまりライブラリ調製とデータ解析を学内で行うためのシステムです。

さて、このシステムの宣伝も兼ねて総合分析実験センターではゲノミクスに関するセミナーを開催することにしました。セミナーのトピックスはヘテロ接合性の喪失 (Loss of Heterozygosity; LOH) です。LOH は腫瘍学において盛んに研究されてきましたが、ゲノミクスの進展により産業利用される生物でも LOH の重要性が認識されようとしています。そこで、酒類総合研究所から赤尾健博士をお招きし、LOH に関する研究が進んでいる清酒酵母の進化と育種についてお話し頂きます。また、無性生殖するカンキツにおいて LOH によるゲノム変動を捉えたことを当センターの永野が報告します。

日時：3 月 16 日(月)16:00~18:00

場所：農学部大学院多目的講義室(101 号室)

プログラム：

- 1) 「次世代シーケンサーのためのライブラリ調製&データ解析システム」の紹介
総合分析実験センター・永野幸生
- 2) 招待講演「清酒酵母の進化と育種のゲノミクス」
酒類総合研究所・赤尾健
- 3) 「ゲノミクスに基づくカンキツの進化」
総合分析実験センター・永野幸生